

第**204**期

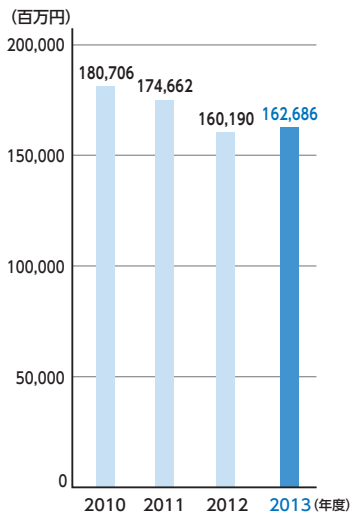
株 主 通 信

平成25年4月1日～平成26年3月31日

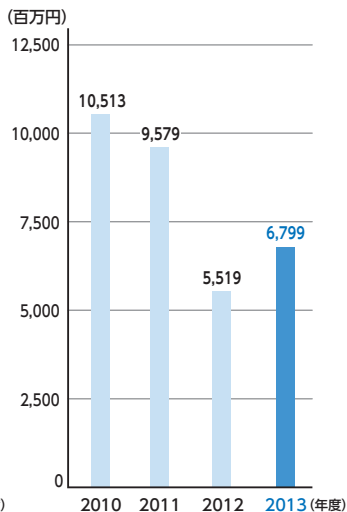


業績の推移

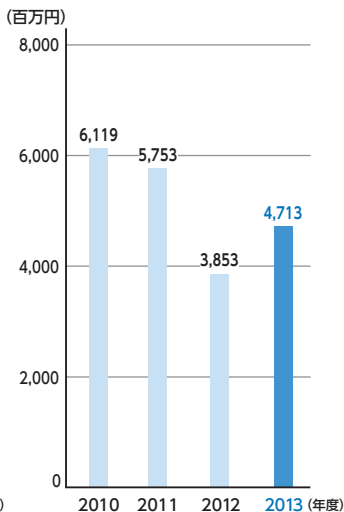
■ 連結売上高



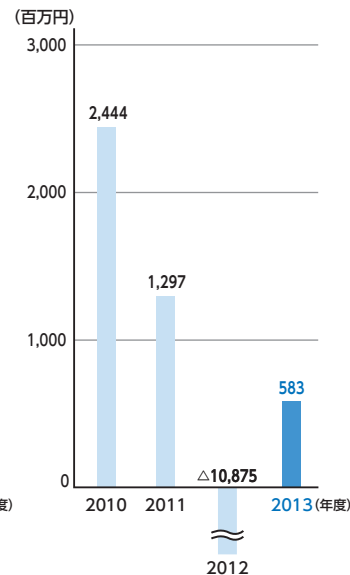
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益

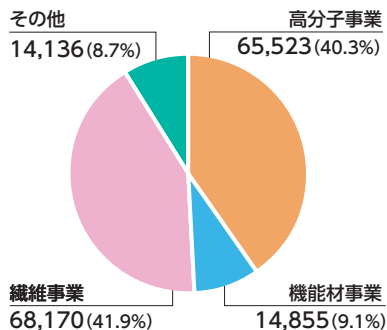


■ 連結当期純利益

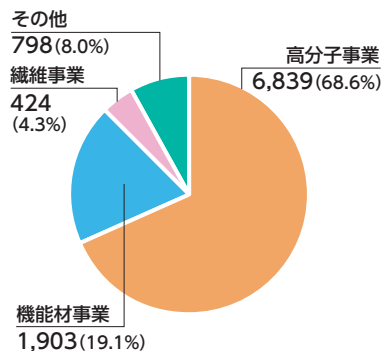


■ セグメント別 連結売上高・連結営業利益 (単位:百万円)

連結売上高 (構成比)



連結営業利益 (構成比)



連結売上高

合計 162,686百万円

連結営業利益

合計 6,799百万円

※セグメント別の連結営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております(合計9,965百万円)。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第204期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、政府による積極的な経済政策や日銀による金融緩和策を受けた円安株高を背景として、輸出企業を中心に業績の改善が見られました。さらに、設備投資や個人消費にも持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、為替変動などに伴う原燃料価格の上昇や新興国経済の減速、増税後の消費動向の懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、当期が2年目となる中期経営3カ年計画『Change & Challenge' 14』に掲げる施策に基づき、高分子事業を中心とした事業拡大戦略の推進を図るとともに、価格改定など事業環境の変化に対応する施策を実行し、機能資材メーカーとしての基盤強化や低採算事業の収益改善に努めてまいりました。この結果、当期の連結売上高は162,686百万円(前期比1.6%増)、連結営業利益は6,799百万円(同23.2%増)、連結経常利益は4,713百万円(同22.3%増)となり、減損損失や製品改修引当金繰入額などの特別損失を計上したため、連結当期純利益は583百万円(前期は10,875百万円の純損失)となりました。

なお、当期につきましては、誠に申し訳ありませんが無配とさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、当社グループは、新たに作成した新中期経営計画に基づき、低採算事業及びノンコア事業の縮小・撤退による事業ポートフォリオ改革を通じて、経営資源を高収益事業である高分子事業及び成長市場であるアジア地域向けの事業へ積極的に投入し、持続的な成長を目指してまいります。

本計画の着実な達成を通じた企業価値最大化の実現に向け、長期目線での一貫した経営方針のもと、粘り強く実行し続ける経営姿勢の堅持、決めたことを具現化する業務行動の改革も同時に実行いたします。当社グループは、全社員が力を合わせ企業体質や風土を変え、新生ユニチカを実現する所存であります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



代表取締役社長

注連 浩行

■状況

フィルム事業では、包装分野は、国内需要が回復し、輸出も好調に推移したため販売数量が増加しました。工業分野は、ポリエステルフィルムの電気・電子機器用途での需要低迷が続いたため販売数量は減少しました。また、原燃料価格の上昇に対応するため製品価格改定を行いました。為替変動などの影響で原燃料価格が更に上昇したため収益は減少しました。この結果、事業全体で増収減益となりました。

樹脂事業では、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、自動車用途やスマートフォンなどの情報端末機器用途での販売が好調に推移し、ナイロン樹脂も自動車用途が堅調に推移しました。ポリエステル樹脂は、環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」の用途開拓やダイレクトブローボトル用途への販売が進み、収益に貢献しました。また、独自に開発した環境配慮型の高耐熱性ポリアミド樹脂「ゼコット」もユーザー各社での評価が進み、用途展開が拡大しております。この結果、事業全体で増収増益となりました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、公共事業の回復に伴って土木用途が大きく伸長し、除染廃棄物仮置場に使用するガス透過性防水シート「エルベスキャッピングシート」などの震災復興用途での販売も進みました。また、生活資材用途も好調に推移し、輸出处の販売増加も寄与したため収益が大きく改善しました。コットンスパンレースは、ウェットシート用途の販売が伸長し、他の用途でも堅調に推移しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

バイオマスプラスチック「テラマック」は、フィルム、樹脂、不織布、繊維の各事業で積極的に展開しています。繊維の需要は回復基調で推移しましたが、全体的には伸び悩みました。

以上の結果、高分子事業の売上高は65,523百万円(前期比7.0%増)、営業利益は6,839百万円(同2.2%減)となりました。



直線カット性で開封性に優れた
ナイロンフィルム「エンブレムNC」



「Uポリマー」使用
自動車ターンランプ アンバーキャップ



除染廃棄物処理用建築資材 バイオマスプラスチック「テラマック」
「エルベスキャッピングシート」 幼児用食器「iiwan」

■課題

フィルム事業は、包装分野では、原燃料価格の動向に応じた価格改定を推進するとともに、差別化フィルムの拡販により、収益の確保に努めます。また、インドネシア子会社のエンブレムアジアにおけるナイロンフィルム大型新鋭機の増設に伴う生産能力の増強により、東南アジア市場でのシェア拡大や欧米市場での拡販を図ります。工業分野では、品位・品質向上による新規用途開拓を推進するとともに、新規開発品の採用拡大を目指します。樹脂事業では、環境配慮型の高耐熱性ポリアミド樹脂「ゼコット」は、自動車用途、電気・電子機器用途を中心に用途開拓を一層強化し、生産設備の増強も進めます。また、環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」の新規用途開拓による拡販を継続するとともに、高耐熱性と溶剤可溶性を兼ね備えた新規ポリアリレート樹脂「ユニファイナー」の電気・電子機器用途などへの展開を強化し、収益力の一層の向上を図ります。不織布事業は、「エルベスキャッピングシート」などの震災復興用途やカーペット用途を中心に販売を強化し、コットンスパンレースについては、ウェットシート用途の販売や海外展開を引き続き強化します。バイオマスプラスチック「テラマック」は、耐熱性・柔軟性などの独自の改質技術や加工技術、多様な素材供給力を強みに、新規用途・新規顧客の開拓を図ります。

■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 65,523百万円

営業利益

合計 6,839百万円

■状況

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、土木改修用途や住宅関連用途が堅調に推移し、その他の用途でも好調に推移しました。電子材料分野のICクロスは、情報端末機器用途での高付加価値品の輸出が伸張し、好調に推移しました。ガラスビーズ事業では、標識などの反射材用途は、欧州市況の低迷により、低調に推移しましたが、ロードマーキング用途や自動車向けなどの工業用途で販売数量が増加しました。また、活性炭繊維では、水栓内蔵型などの浄水器用途の販売に加え、自動車脱臭用途や空気清浄用途の販売が好調に推移しました。

以上の結果、機能材事業の売上高は14,855百万円（前期比5.5%増）、営業利益は1,903百万円（同63.7%増）となりました。



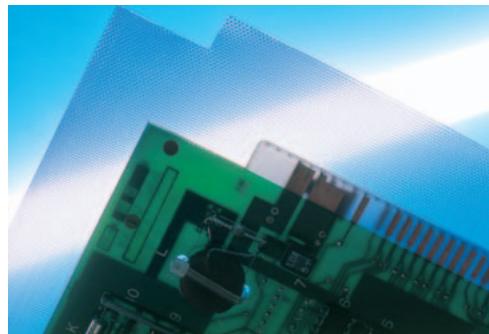
ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路（白線）



高性能VOC除去シート



活性炭繊維フィルター
「デキシフィルター」



プリント配線基板用ICクロス

■課題

ガラス繊維事業は、産業資材分野は、引き続き土木改修用途での拡販を進めるとともに、建築不燃材関連、環境エネルギー関連での販売を強化します。電子材料分野のICクロスは、差別化品の開発を更に進め情報端末機器用途でのシェアを高めることにより更なる収益の拡大を目指します。ガラスビーズ事業は、工業用途を中心に差別化品によるシェア拡大を図るとともに、反射材用途では欧州以外の新規顧客の開拓を進めます。活性炭繊維は、今後も旺盛な需要が見込まれる水栓内蔵型浄水器用途の拡販を進めるとともに、新規用途での市場開拓を図ります。

■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 14,855百万円

営業利益

合計 1,903百万円

■状況

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は、主力の建築・土木分野での市場競争が依然として厳しく採算が悪化しました。ポリエステル短繊維は、バインダー繊維の差別化品などで輸出を中心に需要が増加し、更に円安の影響もありましたが、大幅な採算改善には至りませんでした。ビニロンは、国内市場はおおむね堅調に推移しましたが、ロープ用途での需要減少が響き、売上げが減少しました。海外では、アスベスト代替のセメント補強用途で新興国への拡販が進み、採算は改善しましたが、依然として厳しい事業環境にあります。

衣料繊維事業では、スポーツ分野及びレディス分野は、「サラクル」や「サーモトロン」などの差別化素材の販売が堅調に推移し、海外向けではデニムの輸出が好調に推移しました。ユニフォーム分野は、円安による調達コストの上昇、加工費コストの上昇により、減益となりました。

以上の結果、繊維事業の売上高は68,170百万円(前期比0.7%増)、営業利益は424百万円(前期は370百万円の損失)となりました。



カーシート用途



建設資材用途



土木用途



衣料用途

■課題

産業繊維事業においては、構造改革を実施するとともに、引き続き調達、生産、販売及び管理の全ての段階において抜本的なコスト削減施策を実施し、収益改善の基盤の構築を進めます。衣料繊維事業は、グループ海外拠点を活用したグローバル展開を推進し、生産管理機能の強化を図りながら高付加価値品の拡販に注力します。

■繊維事業 売上高・営業利益

売上高

合計 68,170百万円

営業利益

合計 424百万円

■状況

生活健康事業では、健康食品の「白幻鳳凰」は、発売10周年の記念キャンペーン実施などにより、販売数量は増加しましたが、機能性食品原料は、ラクトビオン酸の販売が堅調であったものの主力製品であるセラミドの需要が回復せず、低調に推移しました。メディカル事業では、医用材料分野は、新製品を投入した主力の循環系カテーテルや排液系カテーテルの販売が伸長し、キチン材料を使用した新製品の上市などもあり、売上げが増加しました。生化学分野は、診断薬の主要客先への販売増加とコストダウンが寄与し、堅調に推移しました。

不動産関連事業では、マンション販売は、一部物件の販売開始が遅れたため収益は減少しました。

以上の結果、その他の売上高は14,136百万円(前期比17.7%減)、営業利益は798百万円(同39.7%減)となりました。



健康食品



不動産関連事業



臨床検査薬



医用材料

■課題

生活健康事業は、食品原料を中心とした機能性素材の拡販により、事業規模の拡大を目指します。特に、主力製品であるセラミドは国内販売の回復を図るとともに、東アジア地域への輸出拡大に注力します。メディカル事業は、新製品のクワッドルーメンカテーテルの採用拡大と排液系カテーテルの創部領域での拡販を図り、キチン製品の海外市場への展開、酵素の産業用途での拡販を進めます。

■その他 売上高・営業利益

売上高

合計 14,136百万円

営業利益

合計 798百万円

その他の課題

海外展開については、前述のナイロンフィルム大型新鋭機の稼働により、ナイロンフィルムのグローパルトップシェアの地位を更に固めるとともに、その他の高分子、機能材、繊維の各事業についても中国やASEAN地域の海外拠点との連携によるマーケティングの強化とアジア市場への新規開拓、欧米市場への拡販に取り組んでいきます。

研究開発については、当社グループが保有する高分子設計・制御技術、機能付与技術や分析技術などを駆使し、ライフサイエンス、環境、エネルギーの各分野で、バイオマスプラスチック、高機能樹脂、高耐熱フィルムなど成長を牽引する開発を加速します。また、「戦略的特許・商標活動」をテーマとして知的財産活動にも注力します。

コストダウンについては、平成26年度においても引き続き構造改革の一環として固定費削減施策を遂行するとともに、変動費についても徹底的な効率化を図ります。また、これまで以上に資金運営の効率化を徹底し、有利子負債の削減に努めます。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	100,274	99,370
固定資産	154,779	154,811
有形固定資産	148,428	148,588
無形固定資産	815	1,201
投資その他の資産	5,535	5,020
資産合計	255,054	254,181
(負債の部)		
流動負債	138,562	144,555
固定負債	95,173	90,257
負債合計	233,736	234,813
(純資産の部)		
株主資本	18,663	19,245
その他の包括利益累計額	△ 854	△ 3,705
少数株主持分	3,508	3,828
純資産合計	21,317	19,368
負債純資産合計	255,054	254,181

その他の包括利益累計額

△ **37** 億 **5** 百万円
(前期比 28億51百万円 減)

「退職給付に関する会計基準」及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」の適用により、純資産の部において、その他の包括利益累計額が減少しました。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高	160,190	162,686
売上原価	130,827	132,503
売上総利益	29,362	30,183
販売費及び一般管理費	23,843	23,384
営業利益	5,519	6,799
営業外収益	2,281	1,893
営業外費用	3,947	3,979
経常利益	3,853	4,713
特別利益	866	534
特別損失	8,415	3,677
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△ 3,694	1,571
法人税等	7,163	918
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 10,858	652
少数株主利益	17	68
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 10,875	583

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

営業利益

67億99百万円

(前期比 12億80百万円 増)

高分子事業を中心とした事業拡大戦略の推進を図るとともに、価格改定など事業環境の変化に対応する施策を実行し、機能資材メーカーとしての基盤強化や低採算事業の収益改善に努めてまいりました結果、営業利益は6,799百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,040	6,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,404	△ 4,103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,432	△ 3,053
現金及び現金同等物に係る換算差額	92	239
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,296	△ 78
現金及び現金同等物の期首残高	15,339	19,636
現金及び現金同等物の期末残高	19,636	19,557

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

エギング、ショアゲーム用のエギ&ライン新商品

「エギエスツーβ(ベータ)」/「キャストライン エギングスーパーPE Jr(ジュニア)」/ 「シルバースレッド ショアゲームPE」

海でのルアーフィッシングには、堤防や砂浜など比較的足場が良いフィールドで気軽に楽しめるエギングやショアゲームがあります。ユニチカは、エギングやショアゲームをより一層多くの方々に楽しんでいただくためのイカ釣り用ルアー(エギ)「エギエスツーβ(ベータ)」、エギング専用ライン「キャストライン エギングスーパーPE Jr(ジュニア)」、ショアゲーム専用ライン「シルバースレッド ショアゲームPE」を発売しました。従来品が持つ高性能で多様な機能を維持し、リーズナブルな価格を実現しました。ピギナーの方々にもぜひお使いいただきたい商品です。



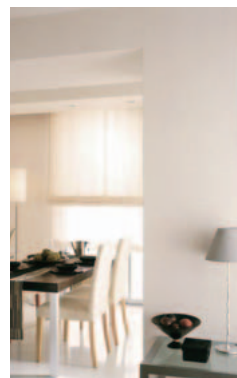
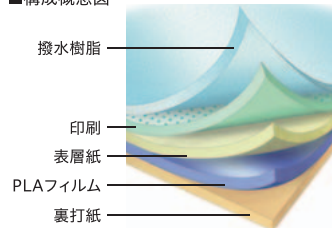
【お問合せ先】 繊維資材営業部 産業資材グループ TEL:06-6281-5623 FAX:06-6281-5634
<http://www.unitika.co.jp/fishing/>

東リ株式会社の紙壁紙「ジョイウォール」に採用

「テラマック」

ユニチカでは、植物由来のポリ乳酸(PLA)を原料とした、透明性、耐熱性、耐久性、難燃性を有するバイオマス素材「テラマック」の多角的な用途開拓を行っています。その取り組みにより、「テラマック」が、インテリア大手である東リ株式会社の紙壁紙「ジョイウォール」に採用されました。紙壁紙の中間層に「テラマック」フィルムを挟み込むことにより、壁紙の伸縮を抑制し、施工が容易になりました。また、強度も高いため、破れや割れが発生せず、綺麗に仕上げることができます。ユニチカでは、壁紙のほか、3Dプリンター用インクや緑化関連資材などの市場開拓にも注力しています。さらに、米国、欧州など海外の展示会にも積極的に出展し、グローバル市場の開拓を推し進めています。

■構成概念図



【お問合せ先】 技術開発企画室 テラマック推進グループ TEL:06-6281-5245 FAX:06-6281-5256
<http://www.unitika.co.jp/terramac/>

ユニチカグループの紹介

ユニチカスパークライト株式会社

ユニチカスパークライト(株)は、ガラスビーズを使った再帰性反射シート・クロスなどの製造及び販売を行っています。色彩、微細な柄付け、柔軟性、ストレッチ性、難燃性、工業洗濯・家庭洗濯性などの機能を併せ持ち、高視認性ユニフォーム、スポーツ衣料、安全用品などの分野で活用されています。ユニチカスパークライト(株)は、「高性能再帰性反射材で安心と安全に役立つ」をスローガンに、皆様の安全を守るお手伝いをしています。



■微細な柄付けを施した反射材サンプル



■高視認性ユニフォーム

本社・日吉工場 〒629-0311 京都府南丹市日吉町胡麻イカガヘラ13番8号
TEL:0771-74-1075 FAX:0771-74-1980
URL:<http://www.unitika.co.jp/sparklite/>

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

- 発行済株式の総数 577,523,433株
- 株主数 58,133名
- 単元株主数 50,001名
- 大株主

株主名	株式数	持株比率
株式会社三菱東京UFJ銀行	23,345千株	4.04%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,379	2.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,932	2.41
ユニチカ従業員持株会	12,291	2.13
大同生命保険株式会社	8,000	1.38
日本証券金融株式会社	6,535	1.13
東京海上日動火災保険株式会社	6,498	1.12
株式会社SBI証券	6,326	1.09
ユニチカ共栄会	6,217	1.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,005	1.04

(注) 持株比率は自己株式(782,356株)を控除して計算しております。

会社の概要 (平成26年3月31日現在)

社名 ユニチカ株式会社
創立 明治22年6月19日
資本金 26,298,450,000円
本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
大阪本社 〒541-8566
大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
電話06-6281-5722
(人事総務部法務グループ)
東京本社 〒103-8321
東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号
電話03-3246-7540 (東京総務部)
研究所 中央研究所(宇治)
事業所 宇治事業所・岡崎事業所・貝塚事業所
垂井事業所・豊橋事業所・坂越事業所
営業所 名古屋
従業員数 連結 4,513名 単体 1,269名

役員 (平成26年6月27日現在)

代表取締役社長	役員	辻連 浩行
取締役相談役		安江 健治
取締役専務執行役員		山口 裕正
取締役常務執行役員		松永 卓郎
取締役上席執行役員		上埜 修司
取締役上席執行役員		阪田 誠造
取締役上席執行役員		長谷川 弘
社外取締役		齋藤 進一 *
監査役(常勤)		永田 直彦
監査役		吉田 俊朗
社外監査役		半林 亨
社外監査役		軒原 正夫
社外監査役		高 捷雄 *

*C種種類株式の発行の効力が生じることを選任の効力が生じる条件としており、当該C種種類株式の払込期日をもって就任することいたします。

執行役員 (平成26年6月27日現在)

上席執行役員	田頭 弘美
上席執行役員	榎田 晃
上席執行役員	森川 光洋
執行役員	小畑 政信
執行役員	細田 雅弘
執行役員	竹歳 寛和
執行役員	富岡 弘之
執行役員	岡 和貴

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ホームページに掲載）
<http://www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

UD FONT

環境に配慮した植物油
インキを使用しています

